



## メタバーズって？

◆ネット上の仮想空間／ビジネス徐々に拡大

Q－最近「メタバーズ」という言葉を耳にすることが増えてきたね。

A－「メタ（超）」と「ユニバーズ（宇宙）」を組み合わせた造語で、インターネット上に作られた3次元の仮想空間のことです。ユーザーは仮想現実（VR）や拡張現実（AR）などの端末を使って仮想空間に入り、自分の分身として動く「アバター」を介して他のユーザーとの交流を楽しむことができます。新型コロナウイルス禍の中、非接触のコミュニケーションの重要性が高まったことなどを背景に、注目を集めています。

Q－メタバーズではどんなことができるの？

A－主にゲームやコンサートなどのエンターテインメントの分野で活用が進んでいます。また、企業が社内会議をメタバーズで開くケースもあります。今年3月には、富山市内の専門学校が入学式をメタバーズで開催するなど、学校での活用例も見られます。

最近ではメタバーズ内でのビジネスも徐々に拡大しています。例えば小売業では、アバターを介して商品を手に取り、店員の接客を受けられます。従来の電子商取引（EC）より現実に近い感覚で買い物ができるという、メタバーズの特徴を生かした販売形態が現れています。観光分野では、仮想空間に再現された観光地を自由に見て回ることができるサービスが登場しています。

Q－メタバーズはこれからどんどん普及していくのかな？

A－普及には課題もあります。安心して利用できるよう、メタバーズでの犯罪やトラブルを防ぐための法整備・仕組みづくりを進める必要があります。ユーザーを増やすためには、安価で装着感が優れたデバイスの開発も求められます。

昨年にはフェイスブック社がメタバーズ関連事業に注力するため、社名を「メタ」に変更するなど、メタバーズへの注目が世界的に高まっていることは間違いありません。

富山県も今年3月、ANAホールディングスと包括連携協定を結び、メタバーズの活用を進めます。今後、メタバーズに関する取り組みはますます加速していくと考えられます。

（北陸経済研究所の藤貴伸が解説しました。）

## メタバーズのイメージ

### インターネット上の仮想空間



#### 仕事の会議

- アバター同士で会議を開いて話し合い



#### 買い物

- アバターで店に入り、商品を手にとって買う



#### イベント

- 人気歌手がアバターでコンサート
- 参加者同士で交流

